

極早生温州の生産性に及ぼす台木の影響

榑 英雄・重岡 開・平山秀文 (熊本県農業研究センター)

Hideo SAKAKI, Hiraki SHIGEOKA and Hidefumi HIRAYAMA :
Productivity of *Very-early Maturing Satsuma Mandarin* by Rootstock

一般に、極早生温州は樹勢が弱く栽培上問題がある。このため、樹勢強化による安定生産の面から、各種台木を用いて極早生温州の生産性に及ぼす影響について検討を行った。

1. 材料及び方法

1984年4月に簡易ハウス内に6種類の台木(第1表)の実生を播種した。柚台は1年生苗を同時に植え付けた。1985年9月に各々の台木に‘市文早生’、‘宮本早生’、‘山川早生’を芽接ぎした。1987年3月に接ぎ木部の地上30cmの位置で切り返して、ピニルポットに植え付けハウス育苗した。1988年6月に2年生苗を4~8本ずつを圃場に定植した。

調査は、接ぎ木後の新梢伸長量、幹幅、定植後の幹周樹冠の拡大、樹勢の推移や収量、果実品質の推移を行った。

2. 結果及び考察

樹の生育は各種台木とも、カラタチ台に比べ新梢の伸び、樹容積、幹周とも大きく樹勢は強かった。特に、シイクワシャー台、福原オレンジ台では、幹周の伸びが大

きかった。

柚台は、1年目の生育は良好で新梢伸長量、幹周とも大きかったが、2年目以降の樹勢の低下は著しく、生育年次の経過とともに樹容積、幹周とも小さくなった。‘市文早生’と‘山川早生’の川野なつだいで台と座ダイダイ台では、1年目にシードリングイエローズの反応がみられ生育が不良であった。

収量は、台木による差がみられ‘市文早生’、‘山川早生’では、樹容積の大きかったシイクワシャー台、福原オレンジ台で多かった。‘宮本早生’では、各種台木ともカラタチ台に比べ同程度からやや多い傾向にあった。

果実の着色はカラタチ台と同程度であったが、各種台木とも果面がやや粗い傾向にあった。果実品質は、各種台木ともカラタチ台に比べ糖・酸ともやや低かった。

以上の結果から、極早生温州の樹勢を強化し、生産性を高めるためには、‘シイクワシャー’、‘福原オレンジ’等の比較的樹勢の強い台木を用いると有効であるが、果実品質がやや低下するため、品質向上対策も同時に検討する必要がある。

第1表 各種台木による極早生の生産性

系統	台 木	幹周 (cm)	樹容積 (m ³)	収 量 (kg)	果肉 歩合	Brix	クエン酸	甘味比
市 文	カラタチ	15.3	1.07	10.0	80.2%	8.2	0.84	10.98
	シイクワシャー	22.5	1.33	13.5	76.6	7.9	0.77	11.55
	福原オレンジ	24.0	2.04	23.2	80.8	7.7	0.81	10.70
	柚	12.8	0.43	3.6	74.8	8.0	0.85	10.77
宮 本	カラタチ	15.3	1.20	12.8	78.6	8.9	0.87	11.36
	シイクワシャー	25.0	2.58	27.5	76.0	8.4	1.10	8.74
	福原オレンジ	22.5	1.84	14.2	76.5	8.4	0.80	11.50
	ナツダイダイ	20.7	2.20	16.4	77.0	8.5	0.77	12.11
	川野ナツダイダイ	21.5	1.84	12.1	77.8	8.2	0.79	11.60
山 川	カラタチ	14.5	1.11	8.4	78.0	8.4	0.91	10.02
	シイクワシャー	19.5	1.28	12.5	79.5	7.7	0.79	10.90
	福原オレンジ	27.0	1.64	13.2	79.5	8.1	0.78	11.68

注) 幹周、樹容積、収量は1992年の調査。果実品質は1990~92年の平均値。